

# 私の保育者雑感

一、

私が幼児保育や幼児心理の問題に興味をもち、その道に足を踏み入れてからやがて三十年近くになろうとしています。この研究を自分のライフワークとして選ぶようになったのは、深い神の摂理がひしひしと感じられます。

私はキリスト教徒の家庭に生まれ、まだ物心がつかない時分に、「将来、神と人に仕える人間になつてほしい」という両親の願いから、敬けんな祈りをこめた幼児洗礼を受けました。それ以来、神のご恩ちょうと両親の暖かい愛情のもとで育ち、日曜日には家の近くにある教会の日曜学校

西本 脩



へ通い、しらずしらずの間にキリスト教の感化を受けるようになりました。母がいつも口癖のように私に言っていたことは、大きく変わったら人さまのお役にたつ人になってほしい。〴〵ということでした。今なお親の期待にそうすることができないので恥ずかしい思いをしています。幼児保育の道を志す直接の動機になったのは、この母親のことばのほか、二人の先哲のことばでした。どちらも旧制高校・大学在学中に読んで感銘を受けたものです。

その一つは、「新約聖書」の中の「マタイによる福音書」第一八章の一節から一四節に載っている次のようなキリストのことばです。

そのとき、弟子たちがイエスのもとに来て言った。「

いったい、天国ではだれがいちばん偉いのですか」すると、イエスは幼な子を呼び寄せ、彼らのまん中に立たせて言われた。「よく聞きなさい。心をいれかえて幼な子のようにならなければ、天国にはいることはできないであろう。この幼な子のように自分を低くする者が、天国でいちばん偉いのである。また、だれでも、このようなひとりの幼な子を、わたしの名のゆえに受けいれる者は、わたしを受けいれるのである。しかし、わたしを信ずるこれらの小さい者のひとりをつまずかせる者は、大きなひきうすを首にかけられて海の深みに沈められる方が、その人の益になる。……あなたがたは、これらの小さい者のひとりをも軽んじないように、気をつけなさい。……あなたがたはどう思うか。ある人に百匹の羊があり、その中の一匹が迷い出たとすれば、九十九匹を山に残しておいて、その迷い出ている羊を捜しに出かけないであろうか。もしそれを見つけたなら、よく聞きなさい。迷わないでいる九十九匹のためよりも、むしろその一匹のために喜ぶであろう。そのように、これらの小さい者のひとりが滅びることは、天にいますあなたがたの父のみこ

ころではない。

私はこのイエスのことばにひどく魅せられて、将来は幼な子のしあわせのために働こうと思ふようになりました。

もう一つのことばは、ルソーが「エミール」の中でいっていることです。

われわれが生まれると同時に、われわれの教育は始められる。われわれの教育はわれわれと同時に始まる。われわれの最初の教師は、われわれに乳を与えてくれる生母または乳母である。

と。また、このことばの注で、次のような味わい深いことも述べています。

子どもの初期の教育は最もたいせつである。そして、これが女のすべきものだということは疑われない。もし自然を造った神がこれを男にさせようと考へたのなら、神は幼児を哺育するための乳を、男に与えたはずである。ゆえに、教育論はわけても女に向かって語るがよい。なぜなら、女は男よりも子どもの近くにいて、これを監督し、子どもにより多くの感化を与えるのみでなく、その教育が成功すれば、女は非常な利益を受けるためである。……母親の子どもに対する地位は父親の地位よりも一

層たしかで、その義務は一層骨が折れ、その心がけは家庭の幸福を左右することが一層大きい。またおおむね母親の方が子どもに対して、より多くの愛着をもっている。これらのルソーのことばから、私は母親の責任の重大さと母親教育の重要性について考えさせられました。

その後、自分が実際に父親になってみて、ルソーのいうとおり、父親（男性）が母親（女性）の力に比べるというに無力なものであるかを体験しました。そして、幼児の保育にたずさわる保育者は、男性よりも女性に向いた仕事であると思うようになりました。

## 二、

幼児の保育を効果的にするためには、いろいろな条件を整える必要がありますが、とりわけ重要な条件は、すぐれた保育者を得ることでしょう。たとえどんなにその施設や設備が整っていても、保育案や指導計画がrippにできていたとしても、実際にその施設・設備を利用し、指導計画を実践するのはひとりひとりの保育者ですから、保育者がよくなければ、ほんとうに保育の効果をあげることとはできないでしょう。そればかりではなく、場合によっては、幼

児の成長発達によくない影響を与えてしまうかもしれません。またこれとは反対に、たとえばその施設や設備がそれほど完全ではなくても、保育者が有能な人物であれば、これらの欠点をカバーしてなお余りあるよい保育をすることができるでしょう。

結局、施設や設備を活用するか宝の持ち腐れにするかは、保育者その人しだいであるといえましょう。つまり、すぐれた保育者をするためには、なによりもまず保育者がすぐれた人でなければなりません。施設や設備・教材や教具などは第二義的な条件といってよいでしょう。

## 三、

人のからだを診療する女医は、学歴も社会的地位も高く、収入も多いのに、幼児の心を診療し、魂を育てる保育者は、学歴も社会的地位も低く、収入が少なくてよいものでしょうか。仕事の重要性からみれば、人間の心をはぐくむ保育者の役割は、女医と同じ程度か、あるいはそれ以上に重要だと思います。医者へのミスは直接患者の死を招く可能性が多いので、その職責は非常にきびしく考えられています。保育者の責任については、一般に考え方が甘すぎるのでは

ないでしょうか。なるほど、保育者のミスは直接幼児の命取りにはならないにしても、受け持つ子どもの心を傷つけ、精神的に殺してしまったり、人格をゆがめてしまう危険性があります。ですから、保育者の職責も、女医と同様に重大であるといわなければなりません。したがって、その仕事は、だれにでもできるようなまよやさしいものではなく、高い教養と広い専門的な学識と技能を必要とし、専門的な訓練を受ける必要があるものです。

#### 四、

保育者の社会的地位を高め、専門職としての実力をつけるためには、保育者の養成法をさらに充実させる必要があります。つまり、実際に保育者養成にあたってみると、修業年限二年（短期大学）では、まったく中途半ばで、いろんな知識や技能を少しづつかじってみるだけで終わってしまいます。また、他の専門的な職種について資格を得るのに要する教育年数をみると、短大程度のものは少ないようです。専門性が高い職種ほど教育年数は長くなっており、教育年数が長ければ長いほど（学歴が高ければ高いほど）待遇もよりよく、初任給から高くなっています。

他の職種にひけを取らない社会的地位や給与を得るためにも、保育者はすべて四年制大学において専門教育を受けることにし、その卒業生（学士の称号をもつ者）を基礎資格とする必要があるでしょう。将来は修業年限二年の幼稚園教諭養成課程を廃止して、保育所保育の養成も幼稚園教諭の場合と同じく、四年制大学の養成課程で行なうようにし、現在各都道府県で実施されている保母試験制度はなるべく早く取りやめるべきだと思います。保母試験は高校卒業程度で受験でき、短大相当の教育さえも必要としない即席養成法です。このような教育程度の低い安直な方法を続けているかぎり、保母の社会的地位や待遇は、いつまでたっても向上しないでしょう。

なお、この保育者養成の問題は、保育者が若い女性にあって魅力的な職業となる条件を作り出すことと切り離して考えることができません。したがって、当然保育者の待遇の改善や、身分保障の確立が実施されなければなりません。

#### 五、

近年、保育者の平均勤続年数が長くなってきましたから、外見上はこの仕事が一時的な腰掛けの勤めではなくなつたよ

うに見えますが、これはどうも表向きだけのようです。保育者の内面、つまり職業意識では、まだ腰掛的な気持ちの者が多いのではないのでしょうか。平均勤務年数が長くなったのは、一般に女性の婚期が延びたのと、共働きが多くなったためで、職業意識が高くなったためではないようです。このような腰掛的な心持ちが、職務に対するおう盛な研究心や積極的な意欲の発展を妨げているのではないかと思われます。だからといって、日常の仕事まで熱心に行わないというわけではありません。ふだんの与えられた仕事はちゃんとやり、退職の前日までまじめに働く人が多いようです。

女性に対する、もっとしっかりした職業意識をもってほしいとか、責任感をもって仕事に当たるとかといった要望は、なにも保育者の仕事に限らず、他の職場の管理者からもよく聞きます。これらの要請は、ただ単に女性ばかりでなく男性に対しても重要な要件でしょう。けれども一般に、女性は男性に比べて職業生活が二次的で短く、ライフワークでなく一時的なものである場合が多いようです。これは、家事とくに出産・育児など女性特有の仕事があるのでやむをえませんが、たとえ保育者としての職務がライ

フワークでなくかりそめのものであったにせよ、これは自己をみがき、ひいては妻となり母親となった後も、家庭生活を豊かにするものにもなると考えて、保育者の仕事に誇りを持ち、打ち込んでほしいと思います。

また残念ながら、女性には男性ほど職業に対するきびしさがみられないことが多いようです。もちろんいい加減な男もいますが、多くの男性は、未婚・既婚を問わず仕事を第一義的に考え、仕事を通じて自己の生計をたてたり妻子を養ったりするために、知識・技能を身につけ、生産性を高めるといった真剣なきびしさをもっています。未婚の女性の多くは、いずれ結婚すれば生活には困らないから、それまでの間、一時的にする仕事と考え、既婚者は家庭を第一に考え職場を二の次にするので、いずれも仕事一すじに生きるというような気迫は少ないようです。

保育者の勤続年数が、学校の女教師の平均勤続年数と比べて短いことは、保育界の進歩発展を遅らせる原因となっています。尊い幼児保育の仕事ががんばってやろうという意欲に満ちて幼稚園や保育所に就職し、無我夢中で仕事をする時期を過ぎて、ようやく職場にも慣れこれからのよよひとり立ちし本領を発揮しようというところに、多くの保

育者は「結婚するのでやめたい」とあっさり退職してしま  
います。そして、未経験の保育者が振り出しにもどって跡  
を継ぎます。この保育者もやっと慣れたところに、また別の  
新人と交替します。……保育者の勤務はこんなことの繰  
り返しであるため、幼児保育界では研究の積み重ねが困難  
で、進歩が妨げられている面が多いようです。

## 六、

創意に乏しいということは、なにも保育者に限らず他の  
職種についてもいえることですが、アイディアの提案では、  
女性は一般に男性に比べて少ないそうです。また、研究会  
や協議会の席上でも、一般に女性の発言は少ないようです。  
けれども、これだけで女性は創造性がないと結論するのは  
早計でしょう。個人的な話し合いや同僚仲間の雑談では、  
なかなかいい意見を述べていることからしても、創意工夫  
の能力がないとはいえません。それでは、なぜみんなの前  
で堂々と提案したり意見を述べたりしないのでしょうか。  
おそらく他人から「差し出がましい」と思われはしないだ  
ろうかとか「意見がもしまちがっていたら恥ずかしい」と  
かいうような気持ちが先だってしまうからでしょう。

創意に乏しいもう一つの理由は、女性は体力や精神的緊  
張に対する抵抗力が弱いため、高度の企画や判断力を要す  
ような仕事に耐える力が乏しいためでしょう。責任の重  
い仕事や複雑で困難な仕事は、精神的緊張から飽きや疲れ  
を感じやすいからです。この特質は、女性にとって根本的  
な弱点となっています。けれども、創造力がないわけでは  
ありませんから、教育的機知を働かして、日々に新たな創  
造的保育をするような心がけてほしいと思います。

できあいの保育案・指導計画や教材を、ただ機械的にま  
ねるような保育では困ります。受け持っている園児の状態  
は、保育雑誌等に掲載している平均的な幼児の姿とは違いま  
す。自分の園や地域の実態にぴったりした保育案、園児の  
実情に合った指導計画でなければなりません。それは保  
育関係の本や雑誌にはどこにも載っていません。自分で工  
夫して作成しなければならぬものです。

## 七、

女性は男性よりもしんぼう強く、単調な仕事でも飽きず  
にやり遂げます。また、男性と違い綿密に物事をします。  
細かい点にまで注意が行き届き、まめに子どもの世話をす

るので、ずさんな男性よりも幼児の保育には向いているといえましょう。そのかわり、女性は一般に、さいいなことに気がつきすぎて大所高所から物事を判断することでは、男性に及ばないようです。

保育者はただ近視眼的に目先の仕事に没頭するだけではいけません。狭い幼児保育の世界だけに閉じこもっていないで、教育問題はもちろん、政治・経済・社会・文化などの諸問題についても関心をもち、広い視野から考える必要があります。保育効果の評価についても、目に見える成果だけを追うようなことなく、幼児の活動の過程や動機をも十分に注意してみて、あせらず着実に日々の充実した保育を積み重ねていかなければなりません。

## 八

女性は一般に感情的でしつと深く、利己的で自分の受け持つクラスのことしか考えない傾向もあるので、ややともすると同僚間のチームワークが乱れがちとなります。一つの園の中で保育者どうしが互いに協力し合うよい人間関係をつくることがたいせつで、個人的な目先の利益よりも、まず園全体のことを優先的に考える必要があります。同じ

園の中にいる保育者どうしが互いに抜け駆けの功名をねらったり、過当競争をしたりしないようにしなければなりません。

## 九

現状では、保育者がほとんど女性であるため、幼児の運動量が少なくなり、冒険的な経験や活動が危険視され抑制されがちで、特に男児はいくじがない、おとなしい弱々しい女性的な人間になる心配があります。男児の女性化を防ぐためにも、保育者は事なかれ主義の消極的な保育をしないで、もっと子どもといっしょにすもうを取ったり、サッカーをしたり、ジャンゲルジムに登ったり台の上から飛び降りたりして、幼児の活動を活発にしてほしいと思います。

(大阪樟蔭女子大学)